

鳥取県におけるヒノキバヤドリギの初記録

清末幸久¹

It's newly found a growing habitat of *Korthalsella japonica* (Thunb.) Engl. (Loranthaceae), in Tottori Prefecture, Japan

Yukihisa KIYOSUE¹

ヒノキバヤドリギ *Korthalsella japonica* (Thunb.) Engl. (ヤドリギ科ヒノキバヤドリギ属) はツバキ科, モチノキ科, モクセイ科, などの常緑樹に寄生しながら, 自らも光合成を行う高さ 20 cm ほどの半寄生の常緑小低木である (太田 2000)。

本種を絶滅危惧種に指定している府県とカテゴリは, 千葉県・福井県 (絶滅危惧Ⅰ類), 京都府 (絶滅危惧Ⅱ類), 滋賀県・奈良県 (準絶滅危惧種) 野生生物調査協会 (2014) である。また, 本種の国内分布は, 本州 (関東地方以西), 四国, 九州, 沖縄, 本州 (千葉・福井以西) ~奄美諸島以南の琉球諸島 (太田 2000; 林 2012) であるが鳥取県内からは報告がなされていなかった。筆者は 2014 年鳥取県内初となる本種の生育地を発見し, 異なる 2 宿主から 2 個体を採取したので報告する。証拠標本は鳥取県立博物館植物収蔵庫 [TRPM] に収められている。

生育地と生育状況

生育地のある鳥取市覚寺摩尼山 (357 m) は, 鳥取市東部に位置し海岸線から約 2.5 Km 内陸に入った場所にある低山である。山麓には因幡の霊場として古くから知られる摩尼寺があり, 標高 120 m あたりから山頂付近の奥の院まで建造物や地蔵群が点在し石段や登山道が整備されている。ヒノキバヤドリギは 2014 年 10 月 5 日, 当該地で開催された観察会の折りに筆者によって, 六角堂と呼ばれる小さな建造物近くの登山道の道わき, 標高約 230 m の場所で確認された。

生育環境は尾根に近い照葉樹の疎林の斜面上部で, スダジイが優占するものの林床まで明るく, 中低木層

にサカキ, ヒサカキ, ソヨゴ, ネジキ, タカノツメ, アセビなどがみられ, 草本層ではコシダが優占し大きな群落を形成していた。ヒノキバヤドリギは, 互いに隣接したサカキとヒサカキの各 1 本に寄生し生育していた。ヒサカキの樹高は 8 m 程度, 胸高直径約 6 cm で, 地上高 1.5 m 付近からほぼ樹冠まで 20 個体以上のヒノキバヤドリギの寄生が確認できた。寄生を受けたサカキは, 同程度の樹高を持つ他の個体と比較すると葉の枚数が少なくなっていた。ヒサカキは樹高約 1.5 m の低木で, 少なくとも 8 個体の寄生を受けており, 葉の数は周辺部の他の個体と目立った変化が見られなかった。確認地付近ではサカキ, ヒサカキともに点在しているが, 登山道にそって 40 m ほど調査した中にはヒノキバヤドリギに寄生されたサカキやヒサカキを発見することはできなかった。



図1 ヒノキバヤドリギ (2014年10月5日)

¹鳥取県立博物館 〒680-0011 鳥取市東町 2-124
Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan
E-mail: kiyosuey@pref.tottori.jp
[受領 Received 29 November 2014 / 受理 Accepted 30 January 2015]

証拠標本

標本番号：〔TRPM-VP-0011424〕

種名：ヒノキバヤドリギ（ヤドリギ科）

学名：*Korthalsella japonica* (Thunb.) Engl.

採集地：鳥取県鳥取市覚寺（摩尼山）
六角堂付近，標高約 230 m

宿主：ヒサカキ

採集日：2014年10月5日

標本番号：〔TRPM-VP-0011425〕

種名：ヒノキバヤドリギ（ヤドリギ科）

学名：*Korthalsella japonica* (Thunb.) Engl.

採集地：鳥取県鳥取市覚寺（摩尼山）
六角堂付近，標高約 230 m

宿主：サカキ

採集日：2014年12月12日

また、ヒノキバヤドリギは、里見（1994）や米山（2003）が指摘するように、園芸活動に伴って人為的に宿主ごと移植された事例があることが知られている。本生育地においても、検証されるべき点であるが、当該地付近の登山道が急峻で積極的に管理された様子がないこと、清末（2013）によると昭和32年（1957年）の森林構成種はサカキ、ヒサカキ、アセビなどで現在と共通点があることから、本生育地のヒノキバヤドリギは天然の安定した環境下で生育したものと考えられる。

保護等について

本生育地は安定しており現時点では特段の保護対策は必要ないと考えられる。また、生育地が山陰海岸ジオパークのエリアに含まれ、登山道を使って観察会やロングトレイルのイベントなども企画されるため、照

葉樹林や本種の存在をジオパークの特長の一つとして広く知ってもらうことで、本種の生育環境を含めた一層の保全につながると考えられる。

本種は低山～沿岸の乾いた照葉樹林にやや稀に生え、元来多産する種ではない（林 2012）。しかし、本県には本生育以外にも海岸線に近い場所に照葉樹林がところどころに残されており、今後、新たな生育地が確認される可能性が皆無ではないと思われ、今後の詳細な生育調査が望まれる。

謝辞

本稿執筆にあたり、ヒノキバヤドリギの採集記録について情報をいただいた、鳥取大学地域学部の永松大博士、日本植物分類学会の田中昭彦氏、鳥取県植物誌研究会の坂田成孝氏、鳥取県立大山自然歴史館館長の矢田貝繁明氏、鳥取生物友の会の清末忠人氏、人為的移動に関する指摘をしていただいた、富山県中央植物園大原隆明主任にそれぞれ感謝申し上げる。また、問題点の指摘と貴重なご助言をいただいた匿名の査読者の方々にもお礼申し上げます。

引用文献

- 林将之（2012）照葉樹ハンドブック．文一総合出版，80 pp.
 清末忠人（2013）摩尼寺詣（へちま供養の日）：95-99．自然と教育を語るⅡ一人・自然・めぐり合い．今井書店鳥取出版企画室
 太田和夫（2000）ヤドリギ科：360-365．石井英美・太田和夫・勝山輝男・城川四郎・高橋秀男・崎尾均・吉山寛（編）樹に咲く花 離弁花1．山と溪谷社．
 里見信生（1994）続折々草：65-66．自費出版．
 野生物調査協会（2014）日本のレッドデータ検索システム．
<http://www.jpnrdb.com/index.html>．（2014.11.20）
 米山競一（2003）里見信生先生の思い出：50-51．里見信生先生の思い出編集委員会．